

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT

2014.5. VOL.24

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

和 お知らせ  
Information

## 理事長就任のご挨拶

郡 健二郎

在職中は大変お世話になりました。深く感謝いたしております。20余年間じっくり仕事をさせていただきましたが、教育(人材育成)・研究・臨床・教室づくりのいずれにおいても道半ばで、一抹の寂しさと心残りがございます。

これからは、この思いを忘れず、この間培ったささやかな経験を活かし、本学のさらなる発展に微力ながら努める所存でございます。日々の活動とともに、本学が抱える大きな課題に、3次元的に取り組みたいと思います。

X軸は、先達が築いた歴史の上に、明るい未来を拓く「時間軸」です。現状は残念ながら、教職員の多くは日々の仕事に追われ、将来の夢を語る余裕をなくしています。私たちは、次世代の人たちが輝かしい花を開かせるよう、種を蒔き大きく育てる責務を負っています。その一策として「名市大未来プラン」を皆さんのご意見を拝聴しながら作成し、7月に提示する予定です。

Y軸は、大学の旧態とした組織と運営を改革する「大学軸」です。大学の資源は限られ、学問は専門化し、社会のニーズは多様化しています。それらの急激な変化に、私たちは先取りして対応せねばなりません。7つの研究科が壁を低くし、人事と学術活動の交流を深め、施設を共有し、国際的な成果を効率的に打ち出すシステム作りはその一つです。そのためにも教職員の意識を共有する「大学憲章」が必要です。

Z軸は、名古屋市や中央官庁との関係を強くする「社会軸」です。公立大学は、国立大学と私立大学の狭間で存亡の機にあるとさえ感じています。公立大学のハンディとなっている法律や制度の改正を強く求めることや、名古屋市との意思疎通を高めることにより、本学の実績が世の中から正しく評価され、学内に蔓延する閉塞感や焦燥感を少しでも和らげたいと思います。

これら3つの方向から、私が掲げる「世界に冠たる名市大」の実現に向け、皆さんのお力を借りて地道に取り組みます。温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。

「瑞医」は、私が研究科長時代に立ち上げた広報誌で愛着があり、懐かしく執筆させていただきました。医学部発展の歴史を語る時代の証言者になることを心より願っております。



郡 健二郎 理事長

## “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

### 連携病院

#### 名古屋陽子線治療センター

名古屋陽子線治療センターは、名古屋市立西部医療センターという500床の入院ベッドを持つ総合病院に隣接する、日本で8番目の陽子線がん治療施設です。2013年2月の治療開始後、2014年3月までに約300名の治療を行っています。いずれの治療も、あらかじめ作成されたプロトコールに則した治療が行われており、主な治療対象は前立腺・肝腫瘍・肺腫瘍です。その他には、基本的には、通常のX線治療の対象となる全ての疾患に対し治療が可能です。現在は、一日45～50名の治療数ですが、今年度に新たに加わったスタッフと共に、年間400名以上の治療を目指します。



名古屋陽子線治療センター外観



ガントリー照射室



シンクロロン

2014年1月からは、日本初となる、回転ガントリー装置でのスポットスキャン照射が始まりました。この照射の特徴は、1)線量集中性に優れ、正常組織の有害事象が低減できること、及び、2)ボラス・コリメータ等の照射野形成装置が不要であり、コスト削減・準備時間短縮がなされることにあります。今後は、究極の照射方法といえる強度変調陽子線治療(intensity modulated proton therapy: IMPT)に向けた研究・準備を行い、常に世界の最先端を目標とし、陽子線治療の普及に尽くしたいと考えております。

センター長 溝江 純悦

### 教育

#### 臨床実習いよいよ始まる

2014年3月31日に医学部同窓会「瑞友会」会長である奥村恪郎先生をお迎えし、M5学生への白衣授与式が行われました。本式では毎年、同窓の先輩方よりM5学生へ、各自の氏名と医学部ロゴの入った白衣が送られます。



全員での記念撮影



奥村会長と正木君

今年は学生を代表して、正木祥太さんが奥村先生より白衣をいただきました。写真をご覧ください。なかなか素敵ではありませんか。

写真の面々は、基礎的な学問を修め、いよいよ患者さんと接する臨床実習を開始しました。今年からは「Student Doctor」を証明するカードも発行され、「Student」ではありませんが「Doctor」としての実習を行うことが期待されています。実習における学生の責任はますます重大となっています。白衣の素敵さに負けないように、素敵なるDoctorを目指して頑張ってください。

文責:麻酔・危機管理医学分野 教授 祖父江 和哉

最優秀論文賞



Kazumi Taguchi

田口 和己(たぐち かずみ) 腎・泌尿器科学分野(臨床研究医)

専門:尿路結石症、腎免疫学、泌尿器腫瘍、内視鏡手術

「尿路結石を溶かす薬はないのですか?」-これは診療において私たち泌尿器科医がたびたび耳にする言葉です。残念ながら現在はまだそのような治療法は存在しません。私たちの教室では、外科的治療に頼ることなく結石を溶解させる治療の開発を目指して、日夜研究に励んでいます。私たちはマウスモデルを用いて、腎には結石を自然消失させる作用があり、そこにマクロファージなどの免疫作用が関係することを見出しました。現在、マクロファージによる結石貪食機構を明らかにするため、大学内外の先生方と共同でさらなる基礎研究および臨床研究をすすめています。基礎研究を通じた地道な努力が将来の尿路結石治療に大きく貢献すると信じています。

近年の論文: J Am Soc Nephrol (2014), J Urol 188: 1002-1011 (2012), J Med Case Rep 6: 199 (2012), Urology 78: 684-686 (2011), Urology 76: 1083-1087 (2010)

優秀論文賞



Ayako Masaki

正木 彩子(まさき あやこ)

血液・腫瘍内科学分野  
(現:臨床病態病理学分野(助教))  
専門:血液内科学、腫瘍免疫

我々は難治性造血器疾患に対する新規治療の開発に取り組んでいます。本グループでは高度免疫不全マウスに患者由来新鮮造血器腫瘍細胞を生着させ、ドナー患者の臨床像を再現した造血器腫瘍モデルマウスの作製手法を確立しており、臨床と密接に関連した研究が行えることが特徴です。そのなかで私は腫瘍免疫に着目して研究を行っています。腫瘍は生体内で常に宿主免疫からの攻撃を受けていますが、多彩な方法によりその攻撃を回避しています。宿主免疫とそれに対する回避機構が腫瘍に与える効果を解明し、新規免疫治療の開発および効果増強に応用することを目指しています。

近年の論文: J Immunol. 192: 940-947 (2014), Eur J Haematol. 92: 219-228 (2014), J Immunol 191: 135-144 (2013), Cancer Sci 103: 1764-1773 (2012)

優秀論文賞



Takaya Nagasaki

長崎 高也(ながさき たかや)

名古屋市立東部医療センター-外科  
生体機能・構造医学専攻 消化器外科学 修了  
専門:消化器癌

“炎症と癌”は消化器外科学教室の主要な研究テーマの一つであり、下部消化管グループでは炎症性サイトカインの一種であるインターロイキン6(IL-6)に着目して研究を進めています。近年、IL-6は大腸癌を含む様々な癌の進展に大きな役割を果たし、またその予後に強く影響することが明らかとなってきており注目を集めています。私は4月から大学を離れ名古屋市立東部医療センターで外科診療に従事しており、これからは臨床的な立場からIL-6の研究に携わっていきたく考えています。最後に、この場をお借りして研究を指導してくださった竹山教授および原先生に感謝申し上げます。

近年の論文: Br J Cancer. 2014 Jan 21;110(2):469-78. Hepatogastroenterology. 2013 Nov-Dec; 60(128):1935-9. Surg Today. 2013 Jan; 43(1):88-90.

優秀論文賞



Shinobu Goto

後藤 志信(ごとう のぶ)

産科婦人科学(助教)  
専門:生殖免疫学、不育症、周産期医学

大学卒業後、海南病院で5年間の臨床経験後に大学院に進学し、大学病院で臨床診療を行いながら、当教室で伝統のある不育症のテーマをいただき研究を行ってきました。私は「不育症病態における妊娠初期脱落膜中マクロファージのcathepsin Eの役割」というテーマで研究をさせていただき、研究の楽しさや難しさを学ぶことができました。研究者としてはまだ未熟者ですが、今後も産婦人科臨床診療と共に、いつか臨床につながり患者さんに役立つ研究成果が出るよう地道に研究を続けていけたらと思っています。

近年の論文: Mol Hum Reprod. 2014 Feb 13, Congenit Anom. 2013 Jun;53(2):92-4., Congenit Anom. 2012 Sep;52(3):179-81., Case Rep Med. 2012;2012:827543.

優秀論文賞



Taro Murai

村井 太郎(むらい たらう)

放射線医学分野(助教)  
専門:放射線腫瘍学、高精度放射線治療

放射線治療機や画像技術の高度化により放射線治療の技術は長足の進歩を遂げてきました。この有効性を実証するため、現在、我々は大い転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療についての多施設臨床試験を行っております。また、近年、次々と新規承認されている抗悪性腫瘍薬と放射線との相互作用については期待と未知の部分があります。そこで、今後の研究課題として①新規化学療法と放射線の関係、②放射線による有害事象を減らすための漢方薬の可能性や③治療効果を予測するための分子イメージングに関心を寄せています。

近年の論文: Pract Radiat Oncol (2014) [Epub ahead of print], Clin Oncol 26(3):151-8. (2014), Radiat Oncol 8:68 (2013), Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 82:463-7 (2012), Radiat Oncol 7:123 (2012)

学位は研究者のパスポートです。さらなる飛躍を期待します!がんばれ桜山人!

## 名誉教授のご紹介

## 戸蒔 創 名誉教授

## —戸蒔先生をお迎えして—

この度、私たち名古屋市立西部医療センターに前名古屋市立大学長の戸蒔 創先生(小児科名誉教授)をお迎えすることになりました。この4月から名古屋市立病院のスーパーバイザーとして、また専門分野である新生児医療センター長としてご活躍でございます。

平成17年、私が西部医療センターの前身である城北病院から名市大小児科に帰局した当時、先生は小児科主任教授で副院長(病院長は上田前病院局長)でした。そして平成19年病院長になられ、日本未熟児新生児学会の理事長として国際学会1つ全国学会2つを主催され、その事務局としてご協力させていただきました。その間全くの臨床家であった私に、新生児学のみならず医療人としてのコミュニケーション力の重要性をご指導頂きました。周囲の声に“心の耳で聞く”姿勢や、相手の立場をリスペクトする大切さを、ご自分が手本となり態度で示して頂きました。そして私が西部に戻った翌年平成22年に学長になられ、名古屋市立大学の革新・発展にご尽力されました。今回学長の座を退かれ当院にお迎え出来たことは、私たち小児科スタッフのみならず、当院や名古屋市病院局としても望外の喜びです。

残念ながら当院近隣にはマックはございません(私の大学時代、戸蒔先生と週一医局でマックを食べるのが習慣でした)。心機一転これからは西部医療センターの一員として、大学病院との架け橋になっていただき、また新生児学のトップランナーとして私達をご指導頂けることを祈念致しまして、戸蒔名誉教授のご紹介とさせていただきます。

名古屋市立西部医療センター副院長・総合小児科部長 鈴木 悟



戸蒔 創 名誉教授

## 藤井 義敬 名誉教授

藤井義敬先生は昭和50年に大阪大学医学部をご卒業され、大阪大学第一外科に入局後、英国Royal Free Hospitalや米国The Salk Instituteに留学され、重症筋無力症の基礎研究に従事され、大阪大学第一外科の講師を経て、平成8年10月から名古屋市立大学医学部第二外科教授の任につかれました。第二外科はその後平成14年に腫瘍・免疫外科とその名前を変えております。第二外科部長、一般外科部長、呼吸器外科部長、輸血部部長、中央手術部部長、臨床試験管理センター長や腫瘍センター長を歴任されました。平成23年から2年間は大学院医学研究科長も兼務され、非常に忙しい日々を送られました。所属学会は日本外科学会、日本癌学会、日本肺癌学会、等多数で代議員、評議員、理事を務められ、平成25年には第30回日本呼吸器外科学会会長として学術集会を主催されました。また長年日本胸腺研究会の代表理事もお務めにられました。重症筋無力症、胸腺腫、肺癌などの基礎、臨床知識はもちろん、医学全般に深い見識をお持ちでございます。非常に温かなお人柄で、多くの患者が日本中から受診されました。本年4月からは東名古屋画像診断クリニックで顧問として新たな分野でご活躍されることと存じます。



藤井 義敬 名誉教授

腫瘍・免疫外科学 准教授 矢野 智紀

# 02 時の人

People in the news

## 新任教授のご紹介

### リハビリテーション医学分野—— 和田 郁雄 教授

#### Q&A:今後の抱負をお願いします

この度平成26年1月1日付けで本学に新設されましたリハビリテーション医学分野教授の任を拝命致しました。

私は昭和53年3月に名古屋市立大学医学部を卒業後、整形外科学教室に入局しました。それからのち、小児整形外科学および足の外科学とリハビリテーション(リハ)医学の診療、研究、教育に携わってきました。特に、小児リハ診療に際しては、子どもの障害を総合的に捉え、必要に応じて整形外科本来の技術と経験を生かした観血治療を行ってきました。

開設されましたリハ医学講座の理念あるいは意義を、リハ医学、医療を通じた社会貢献と位置づけ、1.リハ専門医、特に小児療育に強い専門医の育成、2.リハ医療の充実、そして3.基礎、臨床研究の発展と展開、を目標として講座運営を推進してゆきたいと考えております。そのためには、リハビリテーション医学、医療の根幹をなす基礎、臨床各科の研究・診療の知識と手法に学ぶことが不可欠と考えており、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

リハ医学、医療の活動を通じて得られた知見や技術を、広く我が国のみならず世界に発信するとともに、質の高い医療人を育成することは、結果として社会貢献につながるものと確信しております。



和田 郁雄 教授

### 関節リウマチ制御・機能再建外科学分野—— 永谷 祐子 寄附講座教授

#### Q&A:今後の抱負をお願いします

この度平成25年11月1日付けで関節リウマチ制御・機能再建外科学寄附講座を開設していただき、寄附講座教授を拝命いたしました。私は昭和62年名古屋市立大学を卒業後、整形外科学教室に入局し、整形外科一般研修を積んだあと、平成5年に帰局し、グリオスタチン発現解析を中心とした関節リウマチの病態研究を開始しました。関節リウマチ治療においてパラダイムシフトをもたらしたメトトレキサートや生物学的製剤が登場し、その劇的な治療効果を目の当たりにし、関節リウマチは寛解、治癒を目標にすべきであると確信しました。しかし薬剤耐性進行性リウマチや、炎症が鎮静化されたにもかかわらず骨びらんの進行がみられる症例が存在します。患者さんにとってより安全かつ適切な治療を提供する方法を見いだすことがさらに重要になってきています。症例によっては手術的治療が必要とされる場合があります。手術のタイミングは生活の質の維持に大きく関わるため、人工関節、関節形成術を積極的に施行し、その長期経過を調査して、治療法の適応、有用性、問題点などを検証しています。今後も名古屋市立大学発のオリジナリティーの高い研究を進めていきたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



永谷 祐子 寄附講座教授

### RRSチームってなんだろう? -入院患者さんを急変させないプロ集団-

病院内で患者さんが心肺停止（呼吸と心臓が止まった状態）となった場合、心臓マッサージなどの蘇生処置を行います。しかしながら、医療従事者がいる病院内で心肺停止に陥り、正しい処置を行っても、その後の経過が良くないことが知られています。

名市大病院では、従来から院内救急システムがあります。「コードブルー」

と呼ばれるこのシステムは、院内で心肺停止患者を発見した場合、緊急用番号に電話をすることで救急部医師と集中治療部（ICU）医師が現場に駆けつけるものです。しかし、前述したように心肺停止になってから対応するコードブルーでは、患者さんの回復が遅くなります。急変する患者さんの70%は、その6～8時間前に呼吸回数や心拍数が上昇するなどの“前兆”があるとされています。これを見逃さずに前兆のサインがあった時に介入することで、その後の急変を回避することができます。この介入をRRS（Rapid Response System:ラピッドレスポンスシステム）といいます。



11階南病棟との振り返りの風景

#### Rapid Response System 起動基準

Call:3054

##### 全般事項

・患者に対する懸念  
・「何かおかしい、何か変だ」

##### 呼吸器系

・呼吸回数 10回以下 or 25回以上  
・SpO<sub>2</sub>の低下 92%以下  
・努力呼吸、不規則な呼吸

##### 循環器系

・心拍数 40bpm以下 or 130bpm以上  
・血圧 90mmHg未満

##### 尿路系

・尿量低下 50mL/4h以下

##### 神経系

・意識レベルの低下(変化)

主治医に連絡!!  
Call3054 (暫定)にRRT出勤要請。

RRSは、病棟の看護師が、バイタルサイン（心拍数や血圧、呼吸数など）の異常や小さな異変に気づいたとき、ICU医師にいつでも相談ができるというシステムです。コードブルーよりも早い段階で介入が行えます。RRSチームはICU医師とICU看護師で構成され、電話を受けたRRSチームは病棟にかけつけて診察と適切な処置を行います。昨年度、当院ではRRSを軌道にのせるため、ICU医師とICU看護師が8ヶ月間かけて22部署の看護師を対象に学習会を行いました。その結果、これまでに9名の患者さんの急変を回避できました。うち4名は早期に手術や適切な処置を受け、重症化を免れました。“何かいつもと違う”という声にならない患者さんのサインに気づくことができるのは、ベッドサイドにいる看護師であり、看護師がRRSを活用することで重症化を予防できるとも言えます。

RRSチームは、事例発生から1週間以内に病棟看護師と一緒に「振り返りの会」を行っています。チームスタッフは“Thank you for calling”の姿勢で病棟看護師を励まし、病棟看護師はコールの時期が適切であったかを振り返りながら自分たちの課題を述べてくれます。お互いにとって重要な教育と成長の場となっています。

当院ではRRSへの依頼はまだまだ少なく、十分に定着しているとは言えません。今後も、学習会を継続するなど、定着への地道な努力を続けていきます。また、事例を丁寧に分析し、より良いシステム運用を模索していきます。私達ICUは、患者さんの命を守るRRSチームを目指し、病院全スタッフと協力しながら、チーム一丸となって頑張っていきたいと思っています。 文責:ICU・PICU・CCU 看護師長 伊藤 加代子

### 学生生活

#### オーケストラ部の医学部生2名が ライナー・ホーネック×東海学生オーケストラに出演しました!

医学部6年の伊藤圭馬と申します。

私は平成25年12月1日に行われた、「ライナー・ホーネック×東海学生オーケストラ」ジョイントコンサートに参加させて頂きました。東海学生オーケストラとは1982年に行われた第一回演奏会から始まり、現在では東海地方15大学が参加し年に一度演奏会を行っております。今回はその奏者を中心に、ウィーン・フィルのライナー・ホーネック氏という世界一流の演奏家と共演する事により、15大学の底上げをはかり、学生の側から名古屋に音楽文化を根付かせるという事を目標に演奏会が行われました。この経験を活かし、今後も音楽活動を続けていきたいと思っております。

医学部3年の前川泰孝と申します。

現在、名市大オーケストラ部でコンサートマスターを務めております。

東海学生オーケストラ連盟(通称:オケ連)とは、東海地区の大学オーケストラに所属する有志が運営するオーケストラのことで、年一回の8月の演奏会を目標とする団体です。オーケストラの活動は広く開かれているように見えて、演奏会以外は良くも悪くも非常に閉鎖的です。特に他大学との交流は皆無といっても良いほどです。その状況で、オケ連の活動は学生同士の交流の場であるわけです。また、レベルの高い人達が集まることで、普段ではできないような難曲にも挑戦することができます。今回のホーネック氏との共演が実現したのも、このオケ連だからこそ、と言えるでしょう。一生の宝となるであろう経験だと思っています。



M6伊藤君とライナー・ホーネック氏

#### 基礎棟パソコンルームのパソコンと研究棟のロッカー室がリニューアルされました!

基礎棟パソコンルームのパソコンをWindowsXPからWindows8へリニューアルし、学生定員増に対応するために台数を増やしました。

また、今後女子ロッカーが不足することが予想されることから、女子ロッカー室のロッカーを全てリニューアルし、78個から108個へ数を増やしました。

今回ご紹介するにあたり女子ロッカー室へ撮影に行ったところ、とてもきれいに使われていました。今後もこの状態がキープできることを期待したいと思います。

文責:医学部事務室 O



学生定員増に対応するため、数を増やしました!



禁断(!?)の女子ロッカー室! ロッカーをリニューアルし、数を増やしました

#### 桜山の懐かしのお店紹介-第16回「キッチン和」さん

この度は「キッチン 和(かず)」さんにお邪魔しました。

桜山界隈では、言わずと知れた人気店なので、午前の業務終了後、急ぎ足で向かいます。お昼時には、席があつという間に埋まってしまうのです。

ダウンライトとナチュラルな内装で落ち着いた雰囲気の店内は、既にほぼ満席。運よくテーブル席に座れました。

ランチはM・F・Dの三種類(meat・fish・donburiの略と思われます。)に、お惣菜のラインナップ。肉好きの私は迷わず、Mランチを注文。この日は牛肉と細切りピーマン炒めと大根煮でした。見た目は、素朴な野菜炒め。実家のごはんを思い出します。柔らかい牛肉としゃきしゃき食感の野菜に甘目の和風味付け。つつい箸が進みます。少し多めのごはんもハイスピードで進みます。(ちなみにごはんは小盛りも出来ます。)大根煮もだしが良く染みて懐かしい味。

飽きのこない優しい味の定食で活力を得て、また業務に戻るのでした。

文責:医学部事務室 |



肉派の私は迷わずMランチ!

名古屋市営地下鉄  
桜通線 桜山下車  
徒歩3分  
桜山駅から徒歩147m



### 平成25年度 医学教育等関係業務功労者表彰を受賞した アイトープ研究施設 石原正司さんにお話を伺いました

私は、昭和53年に当時の「放射性同位元素研究治療室」の配属となり放射線管理だけでなくRI検査業務にも携わっておりました。昭和60年「アイトープ研究室」新設のにおりに放射線取扱主任者の任をうけ、主にRI取扱管理、利用者管理、施設維持管理に携わってきました。RI利用の最盛期となる平成4年には上階に分子医学研究所が増築され(7階までの全フロアーにRI施設が設置)、この時点でRI取扱管理はコンピュータ化を図り、主に利用者サービスを中心に業務を行ってきました。思うに法に規定された教育訓練には多くの時間と労力を要し、これまでに1,000人を超える新規利用者がいたことに驚きです。

この度このような栄えある賞をいただくことが出来たのは、ひとえにRIに対し真摯な利用を心がけていただいた利用者皆さまのお陰と心から感謝しております。今後も利用者とのコミュニケーションを重んじ放射線管理業務に精進していきたいと思っております。



### 市民向け講座のご案内

#### 平成26年度最新医学講座オープンカレッジ

本講座では、主に医学について、本学の各専門分野が蓄積している最新の重要な教育研究情報を、わかりやすく解説します。

- 開催日時
- 第2期 平成26年9月～10月 各金曜日  
午後6時30分～8時 全8回
  - 第3期 平成26年11月～平成27年1月 各金曜日  
午後6時30分～8時 全8回

開催場所 桜山キャンパス 医学研究科・医学研究棟11階 講義室A

募集対象 一般 定員 各期80名 受講料 8,000円

応募方法 往復はがきまたはeメール

- 第2期 平成26年7月28日(月)～  
平成26年8月15日(金)(締切予定)
- 第3期 平成26年9月29日(月)～  
平成26年10月17日(金)(締切予定)

詳細はホームページにて各期約1か月前に掲載予定

URL:<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/>

問い合わせ先 名古屋市立大学医学部事務局 オープンカレッジ担当  
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
TEL:052-853-8077  
eメール:igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp

#### 平成26年度 名市大 医療・保健学びなおし講座

この4月より開講7年目をむかえ、春期講座が開講しました。今年度も受講生のご意見、講師陣のアイデアにより、下記カリキュラムで講座を企画。既に始まっている春期は今年も多くの受講生が熱心に受講されています。

時期	曜日	講座内容
春期講座	火	こころと脳の最新医学・医療を学びなおす —子供から高齢者の疾患及び家族支援まで—
	水	知っておきたい、薬を安全に、効果的に使うための知識
	木	免疫・アレルギー性疾患 —基礎的なことから最新の臨床・治療までわかりやすく
秋期講座	火	急性期・災害医療スキルアップ —緊急事態で慌てないために—
	水	発達障害を学ぶ(2014):医学的理解から教育/療育へ
	木	Birth Tour 2014—安全なお産を目指して—

※秋期9月～12月は、8/25(月)締切で受講者募集中です。詳細はHPをご覧ください

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/>

問い合わせ先:名市大 医療・保健学びなおし講座事務局  
TEL:052-853-8077 eメール:manabi@med.nagoya-cu.ac.jp

### ひとつこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたく思います。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」  
ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」  
新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」  
などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は5月号です)

1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) \*匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。\*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

〈受付〉〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp  
名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

\*お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません\*

広報誌: 瑞医(ずいい)

発行: 名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部  
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は平成26年9月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☐  
我こそは  
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新的话题をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp  
または医学部事務局 広報担当まで